

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	化学				担当教員名	植松 敦			
実務経験等	私立小中高大での講師大手の受験予備校（各小中高大向け）での講師、コーディネーター										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	化学1では有機化合物を中心に、対面授業で15回実施し16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	医療従事者として必要な化学思考及び教養を身につける。生命にかかわる基礎を理解する知識を習得する。										
使用教材	看護に必要なやりの生物・化学 照林社 1,600円+税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	物質の構造、元素、原子、分子					9	有機化合物の異性体				
2	イオン					10	有機化合物の官能基				
3	化学式と命名					11	有機化合物の命名法				
4	化学結合の種類と六大栄養素との関係					12	有機化合物の特性Ⅰ				
5	酸・塩基の性質					13	有機化合物の特性Ⅱ				
6	酸化還元反応と実例					14	有機化合物の特性Ⅲ				
7	有機化合物の基礎知識					15	前期のまとめ				
8	有機化合物の構造										
特記事項	小テスト3～4回の結果を定期テストへ平常点として加点										

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	生物学			担当教員名	植松 敦				
実務経験等	私立小中高大の講師大手の受験予備校（小中高大）の講師、コーディネーター										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	「生物学」のテキストを中心に対面授業で15回実施し、16回目にテストを実施し、この効果を図る。										
到達目標	生体内の物質の流れと働きについて、物質の代謝を中心に知識を習得する。										
使用教材	看護に必要なやりなおし生物・化学 照林社 1,600円+税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	物質代謝と酵素 1					9	肺のつくり				
2	物質代謝と酵素 2					10	好気呼吸				
3	細胞を構成する成分 三大栄養素 1					11	嫌気呼吸				
4	三大栄養素 2					12	心臓・血液循環				
5	三大栄養素 3					13	ホルモンとその働き				
6	五大栄養素					14	神経・恒常性の維持				
7	五・六大栄養素					15	まとめ				
8	肝臓・腎臓のつくり										
特記事項	小テスト（4回）の結果を定期テストへ平常点として加点										

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	情報科学			担当教員名	救急 専任				
実務経験等											
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		パソコンを使用した講義									
到達目標		パソコンを中心に情報化社会に対応できる基本的な知識・技術を習得させる。									
使用教材							評価方法		筆記		
授業内容											
1	PCの基礎と歴史について					9	エクセル表の作成				
2	エクセルについて					10	エクセル表の作成				
3	エクセル表の作成					11	ワード文章作成				
4	エクセル表の作成					12	パワーポイント				
5	エクセル表の作成					13	パワーポイント				
6	エクセル表の作成					14	パワーポイント				
7	エクセル表の作成					15	パワーポイント				
8	エクセル表の作成										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	英語			担当教員名	富澤 和子				
実務経験等	当校の、東洋療法科・救急救命科にて「(医療)英語」を担当。他、看護学校・高等学校等でも、20年以上にわたり、英語教育に従事する。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	講義と演習 CD&テープ使用										
到達目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を養い、主体的な行動力を身につけさせる。医療に関する基本的な読み書きができるように習得させる。										
使用教材	キクタンメディカル 1. 人体の構造 アルク¥2,800+税 医療英語コミュニケーション 医療・福祉英語検定協会					評価方法	筆記				
授業内容											
1	オリエンテーション、アンケート記入患者対応の会話表現					9	検査				
2	各診療科の名称					10	リハビリテーション(1)				
3	症状(1) 痛み					11	リハビリテーション(2)				
4	症状(2) かゆみ					12	救急患者(1)				
5	問診(1) 既症歴					13	救急患者(2)				
6	問診(2) アレルギー					14	略語				
7	バイタルサインの測定					15	まとめ				
8	心臓血管系										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	保健体育（前期）			担当教員名	野尻 友美				
実務経験等		現場での経験と科学的、解剖学的視点から効果的且つ特異性に合わせた授業を行う。ストレングスコーチ、フィットネストレーナー、パーソナルトレーナーとして現場指導を行う。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		トレーニング室を使用し、ウエイトトレーニングを実施する。また、プログラムを作成させ、効果的な筋力アップを図る。									
到達目標		前後期を通じ公務員試験対策として、また、救急救命士としての体力をつけるためウエイトトレーニングを中心とした授業を実施する。									
使用教材		テキスト使用無し。ノート筆記用具を毎回持参。					評価方法		出席、実技、筆記試験。		
授業内容											
1	ウエイトトレーニング他					9	ウエイトトレーニング他				
2	ウエイトトレーニング他					10	ウエイトトレーニング他				
3	ウエイトトレーニング他					11	ウエイトトレーニング他				
4	ウエイトトレーニング他					12	ウエイトトレーニング他				
5	ウエイトトレーニング他					13	ウエイトトレーニング他				
6	ウエイトトレーニング他					14	ウエイトトレーニング他				
7	ウエイトトレーニング他					15	ウエイトトレーニング他				
8	シャトルラン他										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	保健体育（後期）			担当教員名	野尻 友美				
実務経験等		現場での経験と科学的、解剖学的視点から効果的且つ特異性に合わせた授業を行う。ストレングスコーチ、フィットネストレーナー、パーソナルトレーナーとして現場指導を行う。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		トレーニング室を使用し、ウエイトトレーニングを実施する。また、プログラムを作成させ、効果的な筋力アップを図る。									
到達目標		前後期を通じ公務員試験対策として、また、救急救命士としての体力をつけるためウエイトトレーニングを中心とした授業を実施する。									
使用教材							評価方法		実技		
授業内容											
1	ウエイトトレーニング他					9	ウエイトトレーニング他				
2	ウエイトトレーニング他					10	ウエイトトレーニング他				
3	ウエイトトレーニング他					11	ウエイトトレーニング他				
4	ウエイトトレーニング他					12	ウエイトトレーニング他				
5	ウエイトトレーニング他					13	ウエイトトレーニング他				
6	ウエイトトレーニング他					14	ウエイトトレーニング他				
7	ウエイトトレーニング他					15	ウエイトトレーニング他				
8	シャトルラン他										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	解剖生理学			担当教員名	黒田 勝美、豊田 洋				
実務経験等	医療機関で救急経験豊富な医師と消防で救急救命士として救急隊員の経験をもつ教員が、人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得させる。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト改訂第11版 基礎分野 「専門基礎分野」第1章人体の構造と機能 1人体を構成する要素から14生命の維持までを対面授業で15回実施し、この効果を図る。										
到達目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	人体を構成する要素					9	循環系(1)				
2	体表からみる人体の構造(1)					10	循環系(2)				
3	体表からみる人体の構造(2)					11	消化系(1)				
4	神経系(1)					12	消化系(2)				
5	神経系(2)					13	泌尿系、生殖系、内分泌系				
6	神経系(3)、感覚系					14	血液・免疫系				
7	呼吸系(1)					15	筋・骨格系、皮膚系、生命の維持				
8	呼吸系(2)										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	生化学			担当教員名	稲津 正人				
実務経験等	大学医学部教授として薬理学の教育に従事し、基礎医学の教育研究の経験をもとに、当該科目の教育を行う。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	テキストを中心に、その内容を理解させる。										
到達目標	人体の生化学物質と代謝について学び、疾病と生化学との関連を理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	糖質 (1)				9	生体エネルギー					
2	糖質 (2)				10	酵素					
3	脂質				11	ビタミン					
4	蛋白質 (1)				12	ホルモン					
5	蛋白質 (2)				13	免疫					
6	核酸 (1)				14	救急病態の生化学					
7	核酸 (2)				15	救急疾患の生化学					
8	ミネラル										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	病理学			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防で救急救命士として経験豊富な教員が、様々な疾病及び障害に関する知識を系統的に習得させるとともに、疾病の基本を理解させる。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト改訂11版専門基礎分野 第2章「疾患の成り立ちと回復の過程」を対面授業で15回実施。16回目にテストを実施し、この効果を図る。										
到達目標	疾病及び障害に関する知識を統計的に習得し、疾病の基本を理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	疾患					9	循環障害				
2	疾患					10	循環障害				
3	細胞障害					11	腫瘍				
4	炎症					12	腫瘍				
5	炎症					13	損傷と治癒				
6	感染					14	損傷と治癒				
7	感染					15	まとめ				
8	循環障害										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	社会保障・社会福祉			担当教員名	救急 専任				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、我が国の保健医療制度の仕組みと現状、社会保障・社会福祉・保険制度の現状を理解させるとともに、救急救命士に必要な知識を習得させる。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト基礎分野第2章「健康と社会保障」を対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果測定する。										
到達目標	我が国の保健医療制度の仕組みと現状、社会保障・社会福祉・保険制度の現状を理解させることを目標とする。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	健康と公衆衛生					9	社会保険（1）				
2	医療を取り巻く環境（1）					10	社会保険（2）				
3	医療を取り巻く環境（2）					11	社会保険（3）				
4	医療供給体制（1）					12	社会福祉と公的扶助（1）				
5	医療供給体制（2）					13	社会福祉と公的扶助（2）				
6	さまざまな保健衛生（1）					14	社会福祉と公的扶助（3）				
7	さまざまな保健衛生（2）					15	まとめ				
8	社会保障とその仕組み										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	救急医療概論			担当教員名	救急 専任				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、救急医療及び災害医療について解説させるとともに、救急救命士に必要な法令等の基礎知識を習得させる。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト改訂第11版専門基礎分野「救急医学概論」1 救急医療体制から9ストレスに対するマネジメントまでを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	病院前救急医療及び救急救命士に必要な基礎知識を習得させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	救急医療体制					9	救急救命士に関連する法令				
2	救急医療体制					10	救急救命士の生涯教育				
3	災害医療体制					11	安全管理と事故対応				
4	災害医療体制					12	感染対策				
5	消防機関における救急活動の流れ					13	感染対策				
6	消防機関における救急活動の流れ					14	ストレスに対するマネジメント				
7	救急活動時のコミュニケーション					15	まとめ				
8	救急救命士に関連する法令										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	救急処置法				担当教員名		救急 専任		
実務経験等		消防で救急救命士として経験をもつ教員が、傷病者搬送過程における救急医療及び災害医療等の病院前救護活動全般の知識習得の重要性を系統的に理解させ、適切な応急処置について修得させる。									
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト11版 救急医学概論/救急救命処置概論 7 救急救命士が行う処置（体位管理は除く）までを対面授業で15回実施し、16回目にテストを実施し、この効果を図る。									
到達目標		救急搬送過程での救急医療、災害医療等病院前救護の全般についての知識を系統的に理解させ適切な応急処置ができるよう習得させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込				評価方法			筆記		
授業内容											
1	処置の目的と意義・気道確保・エアウェイを用いた気道確保					9	人工呼吸				
2	気道異物除去・口腔内の吸引					10	胸骨圧迫				
3	声門上気道デバイスを用いた気道確保（1）LM					11	自動心マッサージ器の使用・電気ショック				
4	声門上気道デバイスを用いた気道確保（2）i-gel・LT					12	静脈路確保と輸液				
5	声門上気道デバイスを用いた気道確保（3）コンビチューブ・WB					13	アドレナリン投与・ブドウ糖の投与				
6	気管挿管（1）					14	体温管理・止血・創傷処置				
7	気管挿管（2） ビデオ硬性喉頭鏡					15	固定・産婦人科領域の処置				
8	酸素投与										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	患者搬送法			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、患者搬送法をとおして救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、救急搬送過程での救急医療、災害医療等の病院前救護全般の知識・技術の基本を系統的に理解させる。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト体位管理P394～P398、傷病者搬送法P436～P451までを対面授業で15回実施し、テストでこの効果を図る。										
到達目標	救急現場、救急搬送過程での傷病者搬送について、知識・技術の全般を系統的に理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版社 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	搬送総論 ボディメカニクス				9	事故車両からの救出方法					
2	搬送方法（1） 体位変換・徒手搬送				10	実技					
3	搬送方法（2） 器具を用いた搬送				11	実技					
4	搬送手順（1）				12	体位管理（1）					
5	搬送手順（2）				13	体位管理（2）					
6	実技				14	体位管理（3）					
7	実技				15	まとめ					
8	ヘリコプターへの搬入と搬出										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	症候と病態Ⅰ			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防で救急救命士として経験をもつ教員が、傷病者の各種疾病の症候・病態生理について理解し、観察、評価、処置、搬送法に関する知識を系統的に習得・理解させる。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト専門分野 「救急病態生理学」のうちショック・重症脳障害及び「救急症候学」を対面授業で15回実施し、16回目にテストを実施し、この効果を図る。										
到達目標	各種疾病の症候・病態生理について理解し、観察、評価、処置、搬送法に関する知識を系統的に習得させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		筆記		
授業内容											
1	ショック (1)					9	痙攣 (1)				
2	ショック (2)					10	痙攣 (2)				
3	重症脳障害 (1)					11	運動麻痺 (1)				
4	重症脳障害 (2)					12	運動麻痺 (2)				
5	意識障害 (1)					13	めまい (1)				
6	意識障害 (2)					14	めまい (2)				
7	頭痛 (1)					15	呼吸困難				
8	頭痛 (2)										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	症候と病態Ⅱ			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等		消防で救急救命士として経験をもつ教員が、傷病者の各種疾病の症候・病態生理について理解し、観察、評価、処置、搬送法に関する知識を系統的に習得・理解させる。									
年次	1学年	開講期	後期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト11版専門分野 「救急症候学」を対面授業で15回実施し、テストでこの効果を図る。									
到達目標		各種疾病の症候・病態生理について理解し、観察、評価、処置、搬送法に関する知識を系統的に習得させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込					評価方法		筆記		
授業内容											
1	喀血・吐血・下血（1）					9	腹痛（1）				
2	喀血・吐血・下血（2）					10	腹痛（2）				
3	失神（1）					11	腰痛・背部痛				
4	失神（2）					12	体温上昇				
5	胸痛（1）					13	呼吸不全・心不全（1）				
6	胸痛（2）					14	呼吸不全・心不全（2）				
7	動悸（1）					15	呼吸不全・心不全（3）				
8	動悸（2）										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	観察と評価			担当教員名	石渡 郁男				
実務経験等	消防で救急救命士として経験をもつ教員が、傷病者対応の基礎である観察について解説させるとともに、受傷状況及び症状ごとの観察の基礎知識を習得させる。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト11版専門分野 救急医学概論 救急救命処置概論1 観察総論から 6 資機材による観察 9 在宅療法継続中の傷病者の処置、外傷の現場活動 (JPTECガイドブックも引用) を対面授業で15回実施し、この効果を図る。										
到達目標	救急搬送の基礎である観察に関する知識を系統的に習得する。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込					評価方法			筆記		
授業内容											
1	観察総論(1)				9	重症度緊急度判断					
2	観察総論(2)				10	資機材による観察(1) パルスオキシメーター・カプノメーター・聴診器					
3	全身状態の観察(1)				11	資機材による観察(2) 血圧計・心電図モニター・体温計					
4	全身状態の観察(2)				12	資機材による観察(3) 血糖測定器					
5	局所の観察(1)				13	在宅医療に対する処置					
6	局所の観察(2)				14	外傷の現場活動					
7	局所の観察(3)				15	まとめ					
8	神経所見の観察										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅰ(前期)				担当教員名	黒田 勝美			
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、①②において救急救命士が使用する各種資器材の名称と使用目的を解説させるとともに、確実な使用方法を習得させる。③④において傷病者に対する各種応急処置と搬送方法・体位管理を解説させるとともに、確実な実施方法を習得させる。⑤⑥において心肺蘇生法の重要性について理解させ、迅速・的確な気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸について習得させる。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	実習	時間数	180時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要	①～②実習室を使用し、各種資器材の名称・使用方法を習得させる。 ③～④実習室を使用し、各種資器材の名称・使用方法を習得させる。 ⑤～⑥実習室を使用し、心肺蘇生法を習得し傷病者の体位管理要領について実習する。										
到達目標	①～②各種資器材の名称と使用方法を理解させる。 ③～④各種応急処置と搬送方法・体位管理について理解させる。 ⑤～⑥心肺蘇生法の気道確保法・胸骨圧迫・人工呼吸について確実に習得させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		実技		
授業内容											
①-1	救急業務について					①-2	呼吸管理資器材取扱い要領				
①-3	呼吸管理資器材取扱い要領					①-4	呼吸管理資器材取扱い要領				
①-5	呼吸管理資器材取扱い要領					①-6	循環管理資材取扱い要領				
①-7	循環管理資材取扱い要領					①-8	循環管理資材取扱い要領				
①-9	循環管理資材取扱い要領					①-10	搬送用資器材取扱い要領				
①-11	搬送用資器材取扱い要領					①-12	搬送用資器材取扱い要領				
①-13	固定用資機材取扱い要領					①-14	固定用資機材取扱い要領				
①-15	固定用資機材取扱い要領					②-1	救急業務について				
②-2	呼吸管理資器材取扱い要領(2)					②-3	呼吸管理資器材取扱い要領(2)				
②-4	呼吸管理資器材取扱い要領(2)					②-5	呼吸管理資器材取扱い要領(2)				
②-6	循環管理資材取扱い要領(2)					②-7	循環管理資材取扱い要領(2)				
②-8	循環管理資材取扱い要領(2)					②-9	循環管理資材取扱い要領(2)				
②-10	搬送用資器材取扱い要領(2)					②-11	搬送用資器材取扱い要領(2)				
②-12	搬送用資器材取扱い要領(2)					②-13	固定用資機材取扱い要領(2)				
②-14	固定用資機材取扱い要領(2)					②-15	固定用資機材取扱い要領(2)				
③-1	応急処置(止血法)					③-2	応急処置(止血法)				
③-3	応急処置(止血法)					③-4	応急処置(止血法)				

③-5	応急処置（固定法）	③-6	応急処置（固定法）
③-7	応急処置（固定法）	③-8	応急処置（固定法）
③-9	搬送法（徒手搬送）	③-10	搬送法（応急担架）
③-11	搬送法（布担架）	③-12	搬送法（サブストレッチャー）
③-13	搬送法（ストレッチャー）	③-14	体位管理
③-15	体位管理	④-1	応急処置（止血法）（2）
④-2	応急処置（止血法）（2）	④-3	応急処置（止血法）（2）
④-4	応急処置（止血法）（2）	④-5	応急処置（固定法）（2）
④-6	応急処置（固定法）（2）	④-7	応急処置（固定法）（2）
④-8	応急処置（固定法）（2）	④-9	搬送法（徒手搬送）（2）
④-10	搬送法（応急担架）（2）	④-11	搬送法（布担架）（2）
④-12	搬送法（サブストレッチャー）（2）	④-13	搬送法（ストレッチャー）（2）
④-14	体位管理（2）	④-15	体位管理（2）
⑤-1	心肺蘇生法（気道確保）	⑤-2	心肺蘇生法（気道確保）
⑤-3	心肺蘇生法（気道確保）	⑤-4	心肺蘇生法（胸骨圧迫）
⑤-5	心肺蘇生法（胸骨圧迫）	⑤-6	心肺蘇生法（胸骨圧迫）
⑤-7	心肺蘇生法（胸骨圧迫）	⑤-8	心肺蘇生法（胸骨圧迫）
⑤-9	心肺蘇生法（人工呼吸）	⑤-10	心肺蘇生法（人工呼吸）
⑤-11	心肺蘇生法（人工呼吸）	⑤-12	心肺蘇生法
⑤-13	心肺蘇生法	⑤-14	心肺蘇生法
⑤-15	心肺蘇生法	⑥-1	心肺蘇生法（気道確保）（2）
⑥-2	心肺蘇生法（気道確保）（2）	⑥-3	心肺蘇生法（気道確保）（2）
⑥-4	心肺蘇生法（胸骨圧迫）（2）	⑥-5	心肺蘇生法（胸骨圧迫）（2）
⑥-6	心肺蘇生法（胸骨圧迫）（2）	⑥-7	心肺蘇生法（胸骨圧迫）（2）
⑥-8	心肺蘇生法（胸骨圧迫）（2）	⑥-9	心肺蘇生法（人工呼吸）（2）
⑥-10	心肺蘇生法（人工呼吸）（2）	⑥-11	心肺蘇生法（人工呼吸）（2）
⑥-12	心肺蘇生法（2）	⑥-13	心肺蘇生法（2）
⑥-14	心肺蘇生法（2）	⑥-15	心肺蘇生法（2）
特記事項			

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅰ(後期)			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、⑦⑧において外傷救急の重要性について理解させ、活動の基本、観察要領、活動要領について習得させる。⑨⑩において全身状態の観察から局所の観察までを系統的に解説し、必要な要領について習得させる。⑪⑫において救急救命士が行う特定行為について適応条件や使用方法を理解させ、その手技について習得させる。										
年次	1学年	開講期	後期	種別	実習	時間数	180時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要	⑦～⑧救急救命士標準テキストによる座学と、実習室でのバックボードを使用した実習を行う。 ⑨～⑩実習室で全身状態の観察から局所の観察方法までを系統的に理解させる。 ⑪～⑫実習室で救急救命士が行う救急救命処置のうち、特定行為について理解させる。										
到達目標	⑦～⑧外傷救急におけるロードアンドゴーについて、テキスト及びJPTECに準じた内容で理解させる。 ⑨～⑩傷病者の観察要領（全身観察・局所観察）について理解させる。 ⑪～⑫救急救命士が行う救急救命処置のうち、特定行為について理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版 へるす出版 20,900円税込						評価方法		実技		
授業内容											
⑦-1	現場活動の基本について					⑦-2	状況評価・初期評価について				
⑦-3	全身の評価について					⑦-4	車内活動について				
⑦-5	状況評価・初期評価要領					⑦-6	状況評価・初期評価要領				
⑦-7	全身観察要領					⑦-8	全身観察要領				
⑦-9	全身観察要領					⑦-10	車内活動要領				
⑦-11	車内活動要領					⑦-12	状況評価から全身観察まで				
⑦-13	状況評価から全身観察まで					⑦-14	シミュレーション				
⑦-15	シミュレーション					⑧-1	現場活動の基本について（2）				
⑧-2	状況評価・初期評価について（2）					⑧-3	全身の評価について（2）				
⑧-4	車内活動について（2）					⑧-5	状況評価・初期評価要領（2）				
⑧-6	状況評価・初期評価要領（2）					⑧-7	全身観察要領（2）				
⑧-8	全身観察要領（2）					⑧-9	全身観察要領（2）				
⑧-10	車内活動要領（2）					⑧-11	車内活動要領（2）				
⑧-12	状況評価から全身観察まで（2）					⑧-13	状況評価から全身観察まで（2）				
⑧-14	シミュレーション（2）					⑧-15	シミュレーション（2）				
⑨-1	全身状態の観察（外観観察）					⑨-2	全身状態の観察（外観観察）				
⑨-3	全身状態の観察（気道に関する観察）					⑨-4	全身状態の観察（気道に関する観察）				

⑨-5	全身状態の観察（循環に関する観察）	⑨-6	全身状態の観察（循環に関する観察）
⑨-7	全身状態の観察（神経に関する観察）	⑨-8	全身状態の観察（神経に関する観察）
⑨-9	局所の観察（皮膚）	⑨-10	局所の観察（頭部・顔面・頸部）
⑨-11	局所の観察（頭部・顔面・頸部）	⑨-12	局所の観察（胸部）
⑨-13	局所の観察（腹部）	⑨-14	局所の観察（鼠径部・骨盤・四肢）
⑨-15	局所の観察（手指・各種アルゴリズム）	⑩-1	全身状態の観察（外観観察）（2）
⑩-2	全身状態の観察（外観観察）（2）	⑩-3	全身状態の観察（気道に関する観察）（2）
⑩-4	全身状態の観察（気道に関する観察）（2）	⑩-5	全身状態の観察（循環に関する観察）（2）
⑩-6	全身状態の観察（循環に関する観察）（2）	⑩-7	全身状態の観察（神経に関する観察）（2）
⑩-8	全身状態の観察（神経に関する観察）（2）	⑩-9	局所の観察（皮膚）（2）
⑩-10	局所の観察（頭部・顔面・頸部）（2）	⑩-11	局所の観察（頭部・顔面・頸部）（2）
⑩-12	局所の観察（胸部）（2）	⑩-13	局所の観察（腹部）（2）
⑩-14	局所の観察（鼠径部・骨盤・四肢）（2）	⑩-15	局所の観察（手指・各種アルゴリズム）（2）
⑪-1	救急救命処置	⑪-2	食道閉鎖式エアウェイ
⑪-3	食道閉鎖式エアウェイ	⑪-4	食道閉鎖式エアウェイ
⑪-5	ラリングアルマスク	⑪-6	ラリングアルマスク
⑪-7	気管内チューブ	⑪-8	気管内チューブ
⑪-9	気管内チューブ	⑪-10	気管内チューブ
⑪-11	静脈路確保	⑪-12	静脈路確保
⑪-13	静脈路確保	⑪-14	心肺停止前の静脈路確保
⑪-15	ブドウ糖投与	⑫-1	救急救命処置（2）
⑫-2	食道閉鎖式エアウェイ（2）	⑫-3	食道閉鎖式エアウェイ（2）
⑫-4	食道閉鎖式エアウェイ（2）	⑫-5	ラリングアルマスク（2）
⑫-6	ラリングアルマスク（2）	⑫-7	気管内チューブ（2）
⑫-8	気管内チューブ（2）	⑫-9	気管内チューブ（2）
⑫-10	気管内チューブ（2）	⑫-11	静脈路確保（2）
⑫-12	静脈路確保（2）	⑫-13	静脈路確保（2）
⑫-14	心肺停止前の静脈路確保（2）	⑫-15	ブドウ糖投与（2）
特記事項			